

課題名	回復期リハビリテーション病棟における身体拘束解除と自立支援への看護
(1)	新規に導入される医療
(2)	保険診療の対象とならない医療
(3)	患者に不利となる可能性のある医療
(4)	その他
研究責任者	看護師長 西山美佳
発表者	松井あみ
概要	<p>I. 研究方法：症例検討</p> <p>II. 情報：既存で診療録のみ</p> <p>III. 症例対象者：患者</p> <p>IV. 症例概要：</p> <p>回復期リハビリテーション病棟は安全に考慮した身体拘束を図りながら、患者の自立支援も同時並行で向き合っていく必要がある。今回、不穏患者に対し安全を優先し身体拘束を実施したことで、より不穏を助長した。またできる ADL としている ADL にジレンマを感じた。そのため多職種で身体拘束解除に向け取り組んだ。結果、できる ADL としている ADL の差を減らし、意識障害の改善、ADL 向上に繋がった事例を報告する。</p> <p>VI. 症例検討における倫理的配慮：</p> <p>①対象者には目的及び意義、方法、対象者が不利益な取り扱いを受けない旨を説明した。</p> <p>②発表にあたり、対象者の個人情報とプライバシーの保護に配慮し、対象者には電話にて口頭で説明し、同意を得た。</p> <p>③対象者の個人情報を匿名化することによって、対象者が特定されないよう配慮した。</p>
	<p>④収集したデータや取りまとめた文章は電子カルテ内で保管しており、院外に持ち出していない。</p> <p>⑤発表後は、収集したデータや取りまとめた文章は削除する。</p> <p>VI. 添付資料：演題登録用の抄録</p> <p>VII. 症例検討発表：</p> <p>令和 7 年 11 月 1 日～2 日 石川県地場産業振興センター本館 第 37 回 NPO 法人 日本リハビリテーション看護学会で発表予定</p>